

中間まとめに向けた基本的な考え方（案）

準備会及び検討会において整理してきた本市が目指す教育・人材育成像と資質能力の育成に向けて、危機感と課題を共有しつつ、これまで本市が構築してきた教育システムを現在の社会の流動性や子供たちの多様性にも柔軟に対応できるものとしていくため、以下の考え方に沿って中間まとめの取りまとめを行っていくこととする。

1. 教育内容等に係る考え方

- Society5.0 に対応した人間を中心とした考え方に基づく教科横断的な教育内容の考え方の定着・重点化を図っていくこととする。
- Kyotango Sea Labo（令和4～6年度）で取り組んでいる STEAM 教育プログラムも基礎としつつ、丹後学の見直しを行い、総合的な学習の時間を中心に、地域に根差した STEAM 教育のカリキュラムを構築することとする。
- 新たな教育カリキュラムのコンセプトを総合的な学習の時間のみならず、日々の学校生活に取り入れ、実践していくための学校の文化醸成・環境整備を図っていくこととする。

2. 教育制度に係る考え方

- 遠隔教育特例校制度や授業時数特例校制度等の既存の特例制度やデジタルツールを積極的に活用することで、地方部のハンディキャップの克服や新たなモデルの構築を図ることとする。
- 中高連携については、上記1. をシームレスな取組としていくためにも、既存の制度の課題等も踏まえつつ、新たな制度や取組の提案を行い、国や府との調整を図っていくこととする。

3. 地域・産業界との連携に係る考え方

本日の議論を踏まえ、上記1. 及び2. の実現に向けて、ヒト・モノ・カネ・情報等の様々なリソースの確保等について必要な項目について中間まとめに盛り込んでいくこととする。

※ 中間まとめの取りまとめに当たっては、ビジョン（本市が目指す教育・人材育成像と資質能力の育成）に基づく上記1.～3.に係る取組を着実に実施していくための工程表を取りまとめることとする。